京城新聞

慶尚道 農商状況（七）

陜川

三嘉へ五里、居昌へ八里

●●戸口 邑内約四百戸、一千七百余人 日本人雜貨商二、男二女二、金貨業一、男一あり又憲兵分遣所、守備隊、郵便所、財務署等あり

▲作柄●●及其他の産物 本年八月の大風（同月十七日午前二時より吹く）にて綿花大豆等の畑作物は多少の被害ありたるも水田は春來晴雨順を得て其成育頗る良好近年其比を見す優に平年の三割方增收なるへしと稱す然れ共本郡は三嘉同樣米豆類の輸出額は甚た少く其主產物は、紙、砂金、等にして是等は其產額甚た多しとせす 目下楮皮の採收中にて沿岸各地中にて楮田の刈取りを爲すもの之を蒸場に運ふもの男女老幼の打集りて脫皮を爲すもの等甚た繁忙を極むるを見る 砂金は當村より八里を距る韓國有數の巨刹海印寺附近を主產地とす同地には近年日本人の來りて採掘を試むるものあり

▲商況●● 當地は東に草溪又は高靈を經て大邱に西は居昌を經て北金泉に南は三嘉を經て晉州に通ずる交通の衝に當り且つ各種物貨の生產豊富なれは商賈の來往頻繁にして市日の如き此近郡中第一の殷盛を極むと云ふ從て輸入日本品等の賣行頗る良好前途有望なりと云ふへし

▲通貨●● 新貨は邑內にて極少數の流通あるのみにて一般に葉錢ならされは流通せす蓋し市場來往の韓商人間には追々新貨の利便を認めつゝあるの傾向あるか如し

▲人氣●● 村內は一般に人氣良好なるか如きも本郡及隣地なる三嘉郡の一部には河東附近の不良徒と通ずるものあるやの疑あり邑內に於ても現に本年四月八日には暴徒の郵便局を襲擊せるあり今尚は一部に不逞の徒伏在するやに聞くも大勢の極まる所其平靜に歸するは蓋し遠きにあらさるなるへし

●附記●● 此附近には桐及生牛を產し其產額少からず

草溪

陜川へ三里、玄風へ六里

●●戸口 邑內二百三十八戸、一千百四十九人 日本人雜貨商一（男一女一）金貨業一（男二）あり又郵遞所あり

△作柄●● 水田は昨年は旱害を受け殆んど平年の六步作に過ぎざりしも本年は春來天候略ぼ順を得て雨量十分なりし爲め其生育は極めて良好にして一般農民は二三十年來無比の農作にて慥に昨年の倍作なりと稱し居れるも先づ平年の一割乃至一割五步の增收なるべきか而して畑物中大豆は開花前後に於る旱天續きに加ふるに八月下旬の風害のため生育甚だ不良昨年より約三割の減收なるべし棉花も亦旱害及風害を受け約三割五步の減收なるべし

△商況●● 當地は邦人住住者は前記二戸にして一は金貨業を專らとして一は菓子類及諸雜貨類の小賣を爲すに過ぎず從て其需要品たる輸入品の如きも穀物輸送季に往復する洛東江の江舟を主なる運輸機關とするに依り各種の商業は甚だ寂寥の狀態に在り

（六十二）

河合柳葉

未亡人三輪子は、大山豊春を自分の室に召して君子の屋敷に來るまでの顛末を聞くのであつた。

三輪子は先づ憫然な笑を見せて、

「永い間の事で嘸疲れが出たであらうね。しかし京都は東京と違つて遊ぶ場所が澤山だから、方々見物は出來たであらうね。」

「はい、お蔭で私まで方々見物さして頂きましてございます。」

「でも、爲雅の病氣が全快したので、本當に嬉しく思ひます、だが一體あの連れて來た女は、彼は奈何云ふ關係から連れて來たのか、爲雅に聞いても見たがお前から聞いて下れと云ふ事だから詳しく話して聞かして下れ。」

「實を申上げますと、山川孤舟と申す俳句の宗匠の妹でございまして、若樣と御一緒に遊びに被入れまして、其節あの娘さんを御覽になりまして余程御意に適たものと相見ねまして、斯う申しますと何でございますが、一時は戀病でも起きねば宜しいがと、私も大層心配致しました程でございましたが、其結果何でも彼でもあの女をお側に召寄せとの仰せでございましたゆゑ、私もお供を申しながら那麽事がありましては、貴方樣始め皆樣へ申譯がないと存じまして、色々御止し遊ばすやうに申上げましてございまするが、到頭お聞入れなく宇治の若樣から先方へお話になりまして、お側に置るやうになつたのでございまする。」

三輪子は呆れ顔に

「どうも可怪と思ふて居たが、して見るとマア妾とでも云ふ理なんだね。」

「……まあ〳〵然う申したやうな理なんでございます。」

「本當に困つたものだね、妾なんか私が承知で屋敷に置く理には行かないから、矢張京都の知合の家から行儀見習ひに頼まれたとでも云つて、屋敷のものに妾なんかと云ふ事は知らないやうにして下れんと、親戚へ知れでもすると、私までが左や右云はれねばならないからね。」

「心得ましてございます、私より御前へ密と申上げますしかし、清川だけには打明た方が宜からうと考へまするが、如何なものでございませう……。」

「然うさね、彼には隱して置く譯には行くまいが、しかし妾を連れて來たと云へば、あゝ通りの嚴格だから、奧も迎へない中に妾などを置くと云ふ法はないと、必然嚴しい事を云ひ出すに極つて居るけれど、然うかと云つて彼に隱す理にも行くまいから知つて知らぬ態をするやうに云ひ含めるより外に爲方があるまいよ。」

「どうか、嚴しい事を云ひ出さねば宜しうございますがね。」

「嚴しい事と云へば、お前に話して置かなきやならないが、ソレお前が京都へ立つ前の晩庭園の四阿で密會だらう、あの事を清川が知つてるやうな樣子で、其と指しては云はないけれど、私に當付がましく、知つて居ると云はないばかりの口態で、お屋敷が表れかゝつた風が見ゑるから、召使などに氣を注けて下れと、意見がましく云つて居たから、若し異個あの事を聞かれでもしたのなら、大變だと思つて大層心配して居るのよ。」

「それは、大變でございますね。」

京城新聞

總務長官廢止論

韓國の保護政廳として統監府の設置せらるゝや百事草創の際なれば多少復雜なる機關を要したれども第二日韓協約により韓國政廳に邦人官吏を任用せしむるに至りて略ぼ機關の整備せるを以て統監府なるものは殆ど重複なる機關の如き有樣となり保護政廳には統監と秘書官あれば優に事を辯ずるに足るが如き觀あり之を以て統監府の縮少說は屢々傳はりたれども尚未だ現實にせられず余輩は夙に其縮少の主張なるを喝へたるのみならず能ふべくんば統監は單に韓國の監政として專ら韓國の指導啓發に任じ移任邦人統轄の機關としては現今の理事官權限を高めて之に當らしむれば可なりと思へり然るに將來統監府の縮少[illegible]なく副統監來任以來全く有名無實の如き總務長官は屢々廢止せらるべき風說のみにて依然として今に存置せらる頃者鶴原氏が總務長官を辭任せらるゝや之を機會に廢止さるべしと思ひしに何此事なく石塚氏は其代理を命せらる何故に斷然之を廢せざるや總務長官なるものは副統監來任以來は一個の事務官となれり然り事務官とはなりたるも亦他の參與官とも性質を異にし何れとも附かず所謂御的官職たるの觀ありて全く有名無實たるに非ざるか現に參與官會議の如きも副統監臨席の上にて開かれ總務長官は之を傍觀するに過ぎず亦實際事務を執る上に於ても障礙[illegible]れば自然敏活を欠ぐに至る何れの方面より觀察するも總務長官なるものは無用の長物たる感あり傳說する所に依れば鶴原氏が辭意を起したるは全く閑散にして何等自巳の手腕を揮ふべき餘地なき爲なりとは恐らくは事實なるべし現在總務長官の位置が斯くあるべき筈なればなり總務長官の有用なりしは副統監來任以前の事にして今は全く總務長官なる職制を要せず夙に廢止すべきものなるべし然るに何ぞや鶴原氏辭任以來官僚中には暗に自巳を以て總務長官の後任たらん事を期する者少なからず之が爲に各自の胸底暗に競爭の念あるに至りては沙汰の限りなり早晩廢止せらるべき官職を覬はんとするに至りては余りに非常識なり畢竟此等も總務長官なる職制の存するが爲に起るものなれば何時迄も有名無實たるが如き官制を存する事なく斷然廢止すれば渠等も斯る念を放棄するに至らんか統監府全体の縮少も亦斷行すべき時機に達し居るなり然れどども總務長官の如き必要を全く感ぜざる官職は統監府縮少の官制改正まで俟つに及ばず速に廢止せざれば當局者は怠慢の譏を免れざらむ余輩は統監府官制の大改革あるべきを信ず更に保護政廳の組織變更の必要を認むるものなれども之が爲に假令一官職なりとも必要なきものを一日と雖も存置するは不可なり此際に於て官制改正の魁として總務長官なるものを斷然廢すべし斯くして官紀を鮮明ならしむるは將さに當局者の義務たるべきなり

●漢城便り

▲數日前在東京杉山茂丸氏より記者に向つて兒玉大將傳一本を惠送せらる、杉山氏は遺書の徒に非ず、而かも多大の資を投じて此好著を世に公にしたる所以の者は一は氏が故大將に有したる崇拜心の滿足と一は大將傳に因つて後進を奮起せしめんとの誠意に基きたる事と被存候。

▲山縣含雪公題して曰く奇才、桂侯題して曰く大觀、寺内子題して曰く氣度雄遠、何れも故大將の先輩として又友人として藤園先生の人物を言盡さんとなしたるものに有之候、若し夫れ後藤男及び杉山氏の序文に至つては故大將に對する熱烈なる崇拜心の發揮に外ならず候、後藤や杉山や或意味に於て驕兒を以て世より目せらる、而かも之等二驕兒をして死後尚其偉格高風に拜跪するを甘んぜしむる故大將はドコにか超凡の點ありしは慥かなる事實なりしと存候。

▲同書の大部分を占むる故藤園先生の軍人としての功績は偉は乃ち偉なりと雖も此は現代に於て軍功を以て先生と匹敵するもの若しくは先生を凌駕するもの決して皆無に非ざるを以て井は別問題として先生を傳ふるに最も適當にして而かも先生の生涯中の英華と認むべきは臺灣總督時代ならんと被存候、宜なるかな、同書第十九章及び第二拾章は先生が膨張的大日本帝國の殖民政策を如何にして遂行し又如何にして永遠の基礎を置かれたるかを說明致居候。

▲要するに兒玉大將傳は一個の立志篇にして又明治の戰史及び政治史と稱すべきものと被存候生ける藤園先生は半ば此書中にあり、而かれども之を以て豈先生の精神の全部迄をも收め得たりと云はんや、但し本書を通ることに因つて庶幾は偉人の幾部分をか窺ふことを得べしとは記者の言はんと欲するところに有之候。

東京電報

▲拓殖株の好況

拓殖株申込は昨夜四百七十五万株に達し未着の分を合せば五百万株に達すべく三十五倍の好成績を來せり（十一日發）

雜報

●韓皇室と兩大學

大隈伯は此程伊藤統監を訪ひ、韓國皇室より早稻田大學基金中へ若干の御下賜ある樣斡旋方を依賴したるに、統監は慶應義塾との關係を考慮の上、然るべく盡力す可き旨挨拶せり

●印度舊王の來韓

英領印度舊「シフケム」の王は英國陸軍少佐「オフコンチル」と同伴一昨夜來城し目下大門外「アスターホテル」に投宿し今朝發列車にて新義州に向へり

●米國書記官入城

東京米國大使館一等書記官ピーエーセー氏は十一日午後八時三十分南大門着入京し十二日午前十一時統監府に曾禰副統監を訪問せしも引籠中なるを以て石塚總務長官代理鍋島外務部長を訪問せり

●水産税則の改止

昨日發布せられたる漁業法實施の曉は日韓人共此の國の法律に從ひて從漁することゝなり從つて日本人も漁業に關する稅金を韓國政府に納付することゝなるを以て水產稅則を改正するの必要あり目下度支部に於て詮議中にして遠からず發布を見るべし因みに從來は通漁條約により日本人は漁船に對して[illegible]水產稅則の適用を受けざりしものなり

●漢城政界の近狀

大韓協會一派も一時は躍起となりて現内閣彈劾に奔勸したりしも更に其甲斐なきを以て其陣を退き靜に雲行を觀望するものゝ如し來乘駿を攻擊せる別働隊も同機一時鋒を收めたり而して一に來乘駿内閣を夢見つゝある一進會も近來活動せず唯東京に在る李會長の行動を觀測しつゝあり故に今は敵味方とも双方睨み合ひの姿ならん乎要するに各々伊藤公の歸任に依りて多少政界に變化あるべきを豫想し居れるものゝ如し

●滿鐵防風林植付

南滿鐵道會社に於ては冬期風雪被害を防ぐ爲め防風林を造る豫定にて沿道附屬地に樹木植附の計畫ある事は一再報道したる所なるが其目的を以て豫て内地に注文し置きたる苗木數万本は此程何れも輸送せられたるを以て直ちに植附に着手する爲め目下各附屬地へ技師を派して實況を調査中なる由

●蔚山根據の捕鯨業

蔚山灣内長承浦を根據として每年捕鯨に從事するは東洋漁業會社及び長崎捕鯨會社の二組にして兩會社一獵期の捕獲高每年三百頭内外に及ぶ、東洋漁業會社は此地の根據地設備を完全にし倉庫あり製造所あり釜山稅關は特に關吏を派遣駐在せしむ、此地を根據として捕鯨に從事するは每年十月より翌年四月に至る約七ヶ月間にして此間兩會社の人員二百人を超え鯨肉運搬の漁船帆船の出入頻繁を極む隨て長承浦在留の邦人約三十戶は此期間に於て最も繁昌す、本年は兩社何れも九月下旬を以て出獵準備に着手し長崎捕鯨會社は十月一日より東洋漁業會社は十月二日より捕鯨に着手したるが十月十三日迄の成績によれば長鯨捕鯨は十一頭を捕獲し東洋漁業は三頭を捕獲し、後者の成績不良なるより同社の捕鯨船隊は元山方面に出獵の準備中なり、要するに年々捕獲する頭數甚だ多きを以てオコツク海より朝鮮海に來游する鯨族の減少を免かれざるべく將來斯業の不振を招くに至らんと憂ふるもの少なからず

●莞島森林の調査

道家農商工部技師は岡同技師と共に別項鶴岡書記官一行と伴ひ莞島森林調査のため出張す鶴岡書記官も序でを以て同島を視察する筈なり

●舊白銅貨交換上の注意

舊白銅貨は愈々本月三十日限り其交換を廢止し其の以後通用を禁止せらるゝものにして右交換期限は決して延期をなさゞる趣なるが度支部に於ては夙に交換者の便宜を圖り各地金庫に於て交換に應せしむるの外各地農工銀行及び普通銀行本支店出張所は勿論地方金融組合に至る迄之れが交換に從事せしめ又地方の狀況によりては有志者をして交換組合を設けしめ舊貨取集めの費用及び金庫迄の運搬費を支給し或は白銅貨の流通盛んなる市場には其の市日に金庫員等を出張せしめ之が交換をなさしむる等種々の方法を以て引上に努力したるの結果其の交換成績は非常に良好なるも尙此等の便宜なき交通不便の地方にして期限内に交換を爲し能はざる者は本月中に其の所持高を所屬財務署に申告するときは期限後一定の時日を期し金庫若くは銀行員を該財務署に出張せしめ交換をなす由に付き期限内に交換をなし能はざる見込のものは其所有高を所屬財務署に申告すべしと

●觀察府移轉の議

公州なる全羅南道觀察府を羅州又は木浦に移すべしとの議あり目下詮議中なり

●特設巡査隊の解散

暴徒討伐の目的を以て内部警務局が主として韓人を用ひて組織したる特設巡查隊は組織以來各地に於て或は賊狀の偵察に或は暴徒の討伐に又は其の歸順勸誘等に功績多大なりしが爾後同隊と類似して而かも組織の大なる憲兵補助員の制行はれて各地に分遣せられ軍隊の配備も完全となりて特に巡查隊を存置するの必要なきに至りたるを以て今回全部の解散をなすことゝなり第一巡查隊は此の程解散したるが第二第三の兩隊も本年中に解散する筈なり因みに同隊は三隊全部にて人員約百五十名なり

●日本人七名被害は誤傳

過日全羅北道に於て日本人七名暴徒に殺害せられたる旨の報道をなしたるものありしが右は左の事實を誤傳したるものなれば茲に詳報せん

全羅南道順天警察署巡查澤畑甚吉は興陽駐在所へ赴任のため客月二十八日同警察署を出發し同夜樂安部筏橋に着し翌二十九日同地農行銀行員米屋孫一同道にて興陽に向ふ途中興陽財務主事（署長）朴鐘亭の下人二名を隨へ歸任の途に在るに會し相共に雜談しつゝ興陽郡過驛橋に到りたるに當日は同地の市日にて多數人民集來し居りしが澤畑巡查は酒幕に入りて喫飯をなし居りしを匪徒首魁姜某の率ゆる四十名の一行同巡查及び米屋孫一を包圍したるを以て澤畑巡查は所持の十六番獵銃にて應戰し四發目に敵彈胸部に命中せしも尙ほ[illegible]ふて賊に近かんとする際小溝の石橋に躓きて倒れたるを賊は馳せ寄りて澤畑巡查の胸に切り付けて人事不省に陷らしめたる上を慘酷にも數ヶ所の斬傷を與へ絕命に至らしめたり一面米屋孫一は所持のピストルを以て暫時應戰したるも衆寡敵すべからざるを覺り約八丁退却したるも追跡せられて賊彈に傷つき其の逃れ難きを知りて大いに奮戰せしも彈傷の苦痛に堪へず其の傍なる韓人家屋に飛び込みしを多數の賊徒は該家を包圍して遂に火を放ちたるを以て再び同家を逃げ出さんとする際激彈額部に命中して倒れたるを多數の賊は蝟集して數ヶ所の負傷を與へ且つ腹部を十文字に[illegible]して殺命せしめたり同人は沈着豪膽にして日露戰役には金鵄勳章功七級を受け居り生國は山口縣吉敷郡西岐波村米屋市藏の長男にして明治十二年二月生なりと又前記財務署長朴鐘亭は一時殺害せられたるものと認められしも足部及び肩胛部に貫通銃傷を受けたるも從員と共に生存し居れり

●通信管理局の行賞

通信管理局にては各保守區駐在官及び駐在員、工夫等にして昨年八月京城事變以來電信電話線の保護及び各種工事等の爲め危險の地域に出入又は危險に遭遇し或は事變に伴ひ繁劇の事務に從事せる者に對し遠からず行賞する筈にて既に功勞調查に着手したりと云ふ

●無稽の流說

仁川に於て斷髮勵行の事蹟なきに拘らず大々的に之を强制しつゝあると風評せらるゝ如く近時韓民間に種々なる無稽の說流布せらる其最も甚しきものを擧ぐれば天長節の當日同地理事廳の夜會に招かれたる仁川府尹及び各面長は大なる侮辱を受け遂に門外に放り出されたりと言ひ觸らし愚昧ある韓人の憤怒を惹起せんとする者あり右は事實を深くも探るに及ばず府尹、面長等悉く大滿足の意を表して散會したりと聞き直に痕形もなき虛構の說たることを知り得べし畢竟斯の如きは日本及び日本人に惡感情を抱く韓人ありて故らに日韓兩國人の親交を阻害せんとする好手段ならん

●學校開設の計畫

仁川の韓人有志相圖りて學校を興し先づ仁川府馬可所面花島里前參判俞致興氏所有家屋を整舍に充て此處に百五十名餘の學徒を收容し崔仁基、朴昌熙、趙慶贊の諸氏專ら敎育の任に當り紳士禹載命より机椅子各五十脚及び金七十圓の寄贈を得て漸く今日に及びたるが其維持頗る困難なるより此際大擴張を行ひ私立小學校及び幼稚園を新設し夜間の授業者も開始する筈にて仁川府尹金潤昌氏及び警部金允福氏之が發起人となり目下基金の募集中なり

●巡査遺族の慰藉

昨十一日内部大臣は暴徒鎭壓に從事中職務に殉じて功績ありし巡查の遺族に慰藉及び吊祭料として左の通り金員を給與せり

一金二千圓也　故巡查大野與四郞遺族　大野俊彥

一金六百圓也　故巡查曹康洛遺族　鄭召史

●學校職員會議

昨十一日より漢城師範學校講堂に師範學校高等學校外國語學校の校長學監敎授の會議を開き敎務に關する打合をなし尙本日も引續き開會せり

●警備電話

忠淸南道江景恩津間の警備電話線は十一月十日通話を開始す

●仁川消防の演習

仁川警察署にては來る十四日[illegible]桃山町宅合名會社淸酒釀造場構内に於て消防大演習を擧行する筈

●印度王族出發

印度王族シッキム公及隨行英國陸軍少佐オーコンノー氏は十日日本より來城十二日朝奉天に向け出發せり

●俵次官の招宴

俵學部次官は昨夜日本人俱樂部に別項職員會議に列の校長學監敎師一同を招き晩餐會を催せり

●木内次官の出張

今日出發の筈なりし木内農商工部次官は病氣のため一日延期し明朝午前八時四十分南大門發列車にて黑岩礦務局長四王天會計課長を隨へ平壤礦業事務所視察のため出張す往復は約一週間の豫定なり

●三宅博士の來城

參政に關する度支部囑託三宅理學博士は一昨夜日本より來京し昨日開城蔘政課視察のため富家度支部技師を伴ひ出張せり

●鶴岡書記官の出張　鶴岡農商工部書記官は明日午後五時仁川發漁船にて本間九介氏と共に全羅南道商工業視察のため出張す往復二週間の豫定なり

●若松理事官　元山同理事官は近日入城せらるべし

●中牟田技師の出張　中牟田農商工部技師は江原道に出張を命ぜられ明日出發す往復約一ケ月の豫定なり

●石川大尉歸任　軍司令部副官石川大尉は釜山出張中の處十一日夜歸任せり

●中西喜久男氏　元山、入支店より當地同支店の次席に轉勤する中西法學士は近日到着する由なり

●濟州島署長の任命　淸水重滿氏（警部）は濟州島警察署長に任せられ赴任の途中病を得目下釜山に滯在せり

●叙任辭令

命隆熙二年辨護士試驗委員附屬書記　裁判所翻譯官補　深江常吉
裁判所書記　佐山嘉間
給七級俸
給九級俸　戸伏孝士
補京城地方裁判所囑託　同　同　佐山嘉間
補京城區裁判所書記　同　同　戸伏孝士
命文官普通銓衡委員長　學部次官　俵孫一
學部學務局長　尹致旿
學部編輯局長　魚允迪
學部書記官　隈本繁吉
同　閔健植
學部秘書官　李晩奎
學部事務官　澁谷元良
同　上村正巳
命文官普通銓衡委員　統監府法務院書記　黑澤休四郎
兼任理事廳屬

●近事片々

▲西朝は容易ならぬ陰謀と題して容易ならぬ報導を掲ぐ其要を摘記すれば左の如し

▲在韓の小人大垣丈夫なるもの頗る曾禰副統監に信任あり一日副統監と密に面議す

▲斯くて急行東上せり運動費として閔衛[illegible]の二人にて三萬圓を支出したりと

▲閔泳徽東鐵の二人は大垣と同行せり東上の目的は太皇帝の復位皇太子の歸國也

▲一進會の解散金允植强博等をして新内閣を組織さしむる等にあり余り突飛の報導

▲曾禰副統監云々の如きは無論虛說に過ぎざるべし事實斯る事のある筈なければ也

▲是は裡面に何か深き理由あるべし一進會一派の流說が多少聲を大にせさるや否や

▲大垣某に多少其者がありとするも此報道は恐らく李容九等の誇大叫聲もあらん乎

▲多少根據ある說とするも今時斯ることを爲すは時勢後れたるを免れず思止が肝要

▲李容九東上して志士扱にされ各所に於て持てたり策士の東上流行するに非ざる乎

▲漢城の問題を東京に持出すの流行は余り賛めた事に非ず何とか此惡弊を除くべし

▲祖國民が韓國事情に暗き爲に巧に悲歌慷慨して其歡心を買はんとするは甚だ非也

▲元來李容九が東上して種々の問題を引起さしむるは何人の指命か黑幕を懲すべし

▲斯く李容九に芝居をさして指揮圖に當れるをフンと鼻蠢めかす策士は抑も誰ぞや

▲漢城の一隅に空嘯いて我は策士なりと自ら誇りつゝある狡智者の末路は抑も如何

▲狡智を弄し小智を弄び以て統監政治の妨害を爲すものは爾來ドシ／＼處分すべし

▲伊公歸任して此智者の處遇は如何に爲すべきや矢張り是迄の如く聲望を有する乎

▲桂首相西下して實業家の歡迎頗る盛也侯も終に財政家となり濟ませるか歎服々々

▲大阪には松方井上大隈等の元老大に持てる太郎宰相も亦た大モテの一人となれり

▲本年の議會には副議長二名說持上るべき模樣なり隨分タダラヌ事に力瘤を入れる

▲大探險家ヘヂン博士來る西藏の狀態を說し事悉ばし河口慧海の法螺に優る萬々也

▲西藏は尙今秘密國にして世界に開放されず博士の探險は將來の開發に利益ならん

▲博士の談話に依るも金鑛に豐富なるは疑へ可き者あり將に亞細亞の寶庫たらん乎

●胸三寸(五)

話し變はツて當地明治町三丁目の石野イト方にては先月末娼妓のキミが拐引し知り合ひとなりたる立西といふ男と手に手を取つて何れへか駈け落ちせしことゝて行衞不明となりたるよりイトは一方ならず胸を痛め種々心當りの家を問ひ合はせしも更に知る由なく今は已むなく警察の手を煩はさむやと思ひ居りし矢先キミより一通の手紙舞ひ込みたれば急ぎ封切り讀み下せば如何に [illegible] て靜岡二長町の第一勢州樓に身を沈め居るとのことにイトは聞くからに胸つぶれ [illegible] 事を後悔せしとて詮術なきより懇意のものとも篤と相談の上結局キミをば落籍すことゝしイトは先きに立西より受け取りし百五十圓の金を持ちて直ぐさま京城を出立し靜岡に着きたるが不思議のことには肝心な娼妓が勢州樓に居らずまるで狐につまゝれたやうな有様にイトは痛く落膽し樓主に就て詮索を遂げし所キミは今より二日以前前借金を踏み倒し何れへか姿を隱し今に在家の程も知れざれば已むなく其の旨警察へ訴へ出でたりとの意外なる言葉にイトは呆れ返り實は自分が靜岡迄遙々來りしは『斯う〳〵の譯』と樓主に向つて物語りソレにつけても折角此所迄來りし程なればタトヒ草を分けても尋ね出して連れ歸らずばと更に樓主と共に心當りの家を隈なく搜索せしにキミの朋輩衆の話しにキミは遠州掛川に知り邊あるとのことを常々より口にし居りたれば或は其所に逃げ落ちはせずやとのことを耳にせしかばイトは早速同地に赴き手掛りといふ手掛りを尋ね回りし揚句漸くの事遠州屋といふ口入屋に居ることを認めたれば直ぐさま取り押へ再び勢州樓に來りて主人に娼妓の不心得を詫び前借金を支拂ひて京城に立ち歸りたるがイトは宜しく相談もあらばキミをば何れへなりと賣り飛ばさんとたくらみ居るとかいふ(終り)

●製藥業者の惡事露見

……二種の劇藥を調劑す……

南部大廣橋十九統七戶趙義穀は從來製藥商を營み居るものなるが此の程ある一種の藥を發明し靈丹と稱して各地方に賣り弘め而も其の筋へは何の屆け出でもなさず横着にも今日迄販賣しつゝありしが惡事千里の譬への通り何時しか此のことが警察の耳に入りしより南部警察署にては直ちに同人を引致し嚴重に取り調べ一方右の靈丹をば大韓醫院衛生試驗部に托し分析方を依賴せしに其の結果右の靈丹は米粉を以て丸め尚二種より成る劇藥より調劑せしものなりとのことなれば既に製造せし全部を沒收したるが其製造高は九百三十四包に及べりと尚同靈丹は全國に行き渡り居れど [illegible] 元山里二洞李珠安金泉市場韓相東洪原洞南門外姜助遠及び等に配分して卸しを爲せしが此の外にも尚ほ種々に聯しきもの [illegible] あり此の事件に就ては今尚ほ取り調べ中なれば其の事實は追つて報道することゝせん

●今様石童丸

……父を慕ふて遙々來る……

[illegible] 母と共に遙々此の地に來り [illegible] 父の顏を [illegible] 默然として腕拱き [illegible] 言葉も掛け呉れぬにぞ何となく眞實の父にてはあらざるかと逡巡しく思ひしが何れにもせよメ子一言の言葉なりともと兩手をば父の膝に當てさも恨めしさうに父の顏をばシゲ〳〵と覗き込み「れ父さん一言物言ふて給や、妾しやれ父さんが其のやうに沈んで居なさると悲しくなツ……」と思はず堰き上る熱き涙をば兩の袂にて拭ひ父の膝に取り縋りて微かに泣き聲を立つ事さへ又ひとしほ哀れといふべし父は程經て少女をば靜々と許りに兩手に抱き締め眼に持つ涙ハラ〳〵と「れ里や此のれ父さんが惡かツた許して呉れ……燒野の雉子夜の鶴三千世界に子を持つて子を思はぬ親が又とあらうぞソナタの顏を見たときはお父さんは飛び立つ許りに嬉しくは思ひしものゝ併しソナタも知つての通りれ父さんが國を出るときに三年間は父とは思ふな父はないものと思ふてれ母さんを大事に暮らしてと……言ひ殘した言葉はヨモや忘れはせまいものを……此のれ父さんは今が丹誠苦心の眞の最中遙々尋ね來られた其の心根は嬉しくは思へどさりとて斯く決心をつけしれ父さんの心中察して呉れい……」と說得せしに少女はハタと胸に思ひ浮びし節のありしか今迄の樣子とは打つて變り軈て父の膝より離れて「ソンなられ父さん妾しは今から龍山のれ母さんの所に歸りましてれ父さんのれ言葉を能くれ母さんに申します程に……」と將に坐をば立たんとする娘をば父は「コレサまア待ちなよ」と許りに少女の肩を輕く押へ「れ母さんが病氣とあらば嘸ぞや難儀なことでもあらう程に此れなる金をと懷より取り出し娘の袂に入れやりたり(つゞく)

●稀なる竊盜犯

……十數罪を犯せし曲者……

現住所不定山口縣熊毛郡阿月村平民吉村得平(三三)なるものは昨年七月釜山理事廳に於て竊盜犯により重禁錮四ヶ月の刑を受け同年十一月滿期出獄したるが出獄後は一定の職業とてはなく其所等此所等をブラ付き廻り善からぬ行ひのみを爲し居りしが去月京城に入り込むや衣食の途に窮したる所から同月七日西小門外鐵道局官舍久光義泰方に忍び入り現金二圓六十錢を竊取せしを手始めに其の翌日又々同官舍鈴木正二方に忍び入り現金五十錢を竊取し尚同日西大門外郵便局官舍宮田菜方の留守宅を窺ひ一圓十五錢を次には米倉町度支部官舍中上辨太郎方にてニッケル懷中時計一個現金二十錢其の次ぎには旭町一丁目法務院官舍前場林五郎方にて狐皮一枚二十三日には第一銀行社宅島田房太郎方にて縞の洋服一着二十七日には龍山鐵道管理局官舍久保田正毬方にて一圓を竊切しつゞいて同日警察なる海津三雄方に忍び入らんとする所を家人に認められて果さず其の後何れにか潛伏し居りし所を一昨日終に南部警察の手にて取り押へられたり

▲店員評判記豫告▼

商業界の發展に連れて商店の繁昌を企圖するには主人其の人が敏腕にして且つ信用に富まざるべからざるは勿論のことなるが又其の商店に身を委ぬる幹部員たる支配人及び番頭小僧諸君が能く主人の命を奉じ加へて商略に長けて居らなければならぬ今若しも顧客の側からいふときは各商店に於ける幹部員の良不良に依つて其商店の信用如何が果して何うであるかと思ふに至るは是れ至當の道理である此の理から押して世人は京城は勿論龍山仁川及び各地方の商店に於て如何なる人が商務を支配し且つ商務に從事しつゝあるかを尋ねたく思ふは言ふ迄もないことである依つて吾が社は爰に鑑みる所あり近日より之が商店の主人及び支配人番頭小僧諸君の商賣振り及び經歷を記述品評し以つて普く江湖に紹介しやうと思ふ若し萬が一にも此の紹介に依つて商界に稗益する所ありとすれば吾が社の本懷之れに過ぎぬのである

十一月九日

京城新聞社

●娼妓にも這な女は少い

……私しの身体は私しの自由……

「藝者にも這んな女がある」とは昨紙記載せし如くなるが本日は之とアベコベにて標題の如き親不孝の娼妓現はれたり正邪妍醜は世の習ひながらさりとは又さま〴〵の浮世といふべし爰に平壤新市街綠町は都樓の抱へ女郎本名杉本芳枝と云ふは本年九月を以て既に契約の年期を濟したる者なるが性來の浮氣者とて直ちに國許へ歸らむともせず其の後豫て言替はした男の許に入り浸り往満の其日を送り來れるが斯くとは知らぬ鄕里の親元にてはさらでも裕ならぬ暮しの萬づに不如意勝なるさかあるに成り行きとは云へ天にも地にも一人よりなき娘を遠く異鄕の地に遣はしたれば其の後の不自由さびしさは言はむかたなく實に燒野の雉子夜の鶴とやらまこと夫より雨降る朝雪の夕兩親が芳枝の身を思ふの情は餘所に見る眼もいたはしき位ゐにして一日も早く年期の滿ちて無事に歸らむ日を待ち居たるに漸くにして待ちに待ちたる其の當日は來れるも肝心の娘は更らに歸り來らざるより兎角不順なる氣候の朝鮮の地に重き病の床にでも臥したるか若くは何かの間違にても起りたるにはあらざるかとさつひつ老の胸を痛めつ幾度か娘に宛て書狀を發したるも更らに何等の返信に接せざるより茲に愈よ胸を躍らし種々と手を替へ探りたる所更よりに思へぬ娘は前記の始末と判明したるより驚ろき乍らも更らに娘の許へ宛て一家の無據事情を細々と書き並べ至急歸鄕すべき旨を申し越したるも既に魂の腐りし娘の芳枝は憐れにもいとしき老たる兩親の心を察せざるのみか私しの身體は私しの自由大きなれ世話だとの返事を遣りしより今は兩親も詮方なく一兩日前平壤警察署へ宛歸鄕保護の願書を呈出したりと云ふさるにても芳枝の心根こそ鬼とも蛇ともいふべけれ

●戀は苦痛の種

戀は思案の外とや小意氣な雜貨屋の一人娘年は二八か二九から思ひ焦るゝ夏の蟬所は旭町一丁目のさるらぬ時も早や二ツ三ツ重ねたる其の名も床しきれ菊となん呼べるはツイ先月頃同町の某官舍に住み給ふ右田とかいふ優さ男をチラと見そめたるが緣の端し一世はれろか二世迄も那の人ならばと深く思ひ込んだろの揚句互に嬉しき首尾を重ねたるが盈つれば缺くる世の習ひ間もなく男といふは役所の命令にて東京に轉勤することゝなりたればれ菊は之を聞くより胸つぶれ身も世もあらぬ迄に嘆き悲しみ妾しや貴郎と分るゝ位ならイツソの事身を投げて死んで了つたがマシですと男の膝にもたれ掛かりて泣き崩れたれば男も緣にひかされ今更ち振り切る譯にも行かずれ前がソレ程迄に此の私しを思ふて呉れるなら私が一應國許へ歸つて兩親に相談し能度連れに來るからソレ迄は今暫らく待ち呉れよと說き聞かしたれば今はれ菊も安心し男は三四日以前東京差して出立せしが其の際れ菊は南大門の停車場迄見送り倒かぬ別れを惜みて袂を分ちたるが其の後男よりの手紙を一日千秋の思ひにて待ち詫びつゝありといふさるにても戀は憂きものかな

●醉ふて寢込む

一昨日午後六時中部長橋三十一統一戶酒商金照澄(二三)なるものが銅峴分署へ訴出て言ふようヨボ一名酒呑みに來て其まゝ寢込んで動かぬ故何とか處置を仰ぎたしとの事に巡査出張し件のヨボを本署に連れ來りたるが住所姓名は不詳なり

●ボヤ

一昨日午後十時より十一時に亘り西署仁達坊南門洞五統四戶照泰任方の藁葺家燒失し五十圓餘の損害を被りたりと原因は溫突の烟突から火の粉が飛んで藁に燃え移りたるなりと

●拾ひ物

一昨日午前十一時頃南部下蛰洞二十五統李奎遠が外出せんとせしに其の入口の所に五寸四方の箱が轉げあるにぞ拾ひ取りて中を檢め見しに中には眼鏡袖入一枚墨壷入及鉛筆二本入りあるより早速其の旨銅峴分署に屆け出でたり

落語

湯屋番（八）

三遊亭圓遊口演

若「アヲ今度の番頭さんは與家に好い男だ事ねへとパッと評判が立てドヤ〳〵乃公を見に來らア、烏渡アノ菊五郎に似て居るヨと來たら菊五郎のやうな面を爲る團十郎に似だワと來たら團洲然と爲るヨ新藏に似て居ると云つたら新藏の様に聲を爲る訥升米藏象三郎に似て居ると云つたらそのやうな聲をする福助に似て居るツと云つたら福助の聲を出すねへ出顆助……出顆助杯どには餘まり似ない方が好いなアハテ困つたな、［illegible］に來る是から［illegible］に行く［illegible］然スルと少と遊びに被入やいと云ふんで迎ひサ古渡りの眢物に古渡りの羽織金側の時計に博多の帶を締てズツと行とアノーれ嬢さん檀那様が被入やいましたと云ふから私は檀那様と云はれる譯は有りませんとピンと刎て遣る、何ですねへ貴郞の方では然うで御座いませうが妾は貴郞を夫と思つて居り升其が證據には地面も家作も皆貴郞の名前に爲て仕舞ましたワ、何うも御氣の毒様でげしたなアと悦ぶ……此節の女は怜悧だから餘まり嬉しがると僅か計りの事で那んなに悦ぶ様な安ッぽい男じやア末の見留が付ないてんで取上られるテ此奴ア餘り嬉しがらねへ方が好い……と云つて、地面家作が貰つて怖い顔を爲て居たら不足なんだらう人に物を貰つて不足を云ふ様な人は止うと來る此りやア困つた何方獨て好いんだか分らない此りやア怖い様な嬉しい顔を爲やう其處で貴郞何方へ御出掛に成んですと様ふから今日は谷中の新葬地へ叔父の墓詣りに參り升アラマア感心じやア有りませんか御若いのに能く御寺詣りに……御一緒に御供を願度いもんで……宜しう御座いますども然う馬車を持て來なつてへ烏渡乙に締つた馬車だチ鎌倉河岸へ往て損料で借て來たんちやア無いや直に馬丁が仕立に掛る……烏渡馬車を仕立る間に何か御馳走爲やうぢア有りませんか恐れ入ました、何でも好な物を御好みなさい、へエ湯出小豆、羊羹屑、力餅、切山椒、田舍饅頭相惜安い者計り好なんだから氣が利ねへなア其外オムレツ、カツレツ餅に數の子藥用葡萄酒に香竄葡萄酒小室ビール、麒麟ビール淺田ビール夫から鹿子餅、最中御汁粉恐れ入りましたが其處へ何卒鰻飯……てへ様な事を云つて種々な物を誂へて貰う、夫ぢやア皆な誂へ升ヨ誂へ物の來る間何か一ツ御唄ひ被爲なと來るだら其處で乃公の聲が恐ろしい人並外れて惡いから驚くよ……詮方が無い色々な謠を唄ふと染々乃公の顔を向ふの女が凝視て見る［illegible］

男「ヤイ何を鹿子餅だの汁粉だのつてグヅ〳〵云つて居やアがるんでへ見ろ乃公の腹撲も辨天も皆な無くなつて仕舞つたア」

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金十五錢 三ヶ月前金四拾錢 六ヶ月前金八十錢 一ヶ年前金壹圓五拾錢

●廣告料 五號活字十九字詰一行一回金十錢 五號活字十九字詰一行金十錢 郵稅一ヶ月前金拾錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城新聞社 京城南大門通